

令和7年度 第2回浦安市郷土博物館協議会議事録

1 開催日時 令和8年3月18日(水) 14時～16時00分

2 開催場所 郷土博物館 視聴覚室

3 出席者

(委員) 明保委員長、大村委員、西澤委員、吉野委員、前田委員、長谷川委員

(事務局) 郷土博物館長、郷土博物館職員4名

(傍聴人) なし

4 議 事

- (1) 報告事項 ①令和7年度 郷土博物館事業報告
②令和7年度 企画展「浦安の大衆芸能」開催案内
③令和8年度 郷土博物館事業計画(案)

(2) その他

(3) 視 察 企画展「浦安の大衆芸能」

5 協議概要

報告事項①令和7年度 郷土博物館事業報告

配付資料に基づき、事務局より説明した。
主な質疑・応答については、下記のとおり。

(委員) この博物館は「生きている博物館」のコンセプトの通り、常に動いていると感じる。その上で、博物館全体の運営の中で、文化財審議会では現在どのようなことを話しているのかも共有してほしい。

また、事前にどんなイベントを行っているか知る機会があるとよい。現在はSNS等で受動的に情報を得ることも多いため、来場者が能動的にホームページ等を見なくても情報が入ってくる仕組みがあるとより良い。

(事務局) 令和7年度第2回文化財審議会を2月に開催し、文化財住宅の修繕の報告、8年度に実施する史跡表示板の改修計画について報告した。劣化の激しい史跡表示板を順次改修する予定であり、本協議会でも報告をしていく。イベントについては、大規模なものはこれまでもメール等でご案内してきたが、小規模なものについてもご案内できるよう検討したい。

(委員) SNSの活用についてはどうか。

(事務局) 現在はホームページの運用を主としているが、今後検討していきたい。

(委員) 職員の負担を増やさず簡便な方法で、利用者が「今日博物館は何をやっているか」がわかる方法があれば良いと思う。

(委員) SNSは費用がかかるものでもないもので、市民に直接届く情報媒体として、積極的に活用してほしい。

(事務局) 発信すべき情報は多くあるため、どういう情報をPRしていくか等整理してから実施したい。現在、保護者向けのコンテンツ「キッズビュー」を活用しているが、一般向けにも、多くの方に情報が届くように考えていきたい。

- (委員) 「ふるさと浦安作品展」の表彰について、今後、同票の場合は決選投票を行うという話だが、児童生徒が創造力を発揮した作品が賞に値するならば、双方を表彰してよいのではないか。
- (事務局) 作品展は、教員や博物館関係者等、様々な立場の方に審査いただき、意見を交わしながら賞を決定している。作品展の賞をとるために、何年もかけて準備をする児童生徒もいる。それぞれの努力や着眼点を評価していきたい。
- (委員長) 様々な仕組みの中での表彰のため、難しいこともあるのではと思う。
- (委員) 審査に参加したが、審査員としてはより多くの児童生徒に賞をあげたいと思っている。審査をすることが審査員のストレスにならないようにしてほしい。
- (委員) 年中行事や伝統芸能に触れられる場所は貴重であり、また、ジュニア学芸員に関しても、自分の将来を考えるきっかけになり、人生を豊かにする活動になっている。小学校はこれまでも博物館と密接に活動してきたが、7年度は中学校への出前授業も行ったとのことで、小学校からの積み重ねがあるからこそ、中学生も授業の経験を自分に活かすことが出来ると思う。
- (委員長) 事務局からあった、社会人向けの周知に関するアドバイスは何かあるか。
- (委員) 仕事でイベントの広報を行ったことがあり、考えることは行ったが、アンケートに「なぜもっと周知しなかったのか」という意見があった。情報のクオリティを保つ必要もあり、大人に対する周知は難しいことだと思う。
- (委員長) 博物館が、「これは価値がある」と思ったことをどんどん実施していくことこそが、よい周知になるのではないか。
- (委員) 文化財IPMに基づいた収蔵庫清掃の件について、博物館の最大使命は資料の保存であるため、きちんとやっていく必要がある。委員の皆様にも、文化財IPMに基づく資料の管理が重要であるとぜひご認識いただきたい。
- (委員) 収蔵庫の清掃はどれくらいのペースで行っているのか。
- (事務局) 約5年に1回行っている。また屋外展示場の文化財住宅は2軒ずつ毎年燻蒸を行っている。資料を守ることが博物館で一番重要な業務であるため、数年ごとに実施すること、毎年実施することをサイクル化していきたい。
- (委員) 7年度は、新規事業や、既存の事業でも一部内容を新しくしたものがあるということだが、小さなことでも新しいことを付け加えていくとよいと思う。また、「もやいの会ヤング」の話があったが、これはどんなものか。
- (事務局) ジュニア学芸員の活動が中学3年生で終了するため、卒業生の活動の場として令和5年に創設した。現在4名が登録しており、新たに2名が活動を希望している。高校卒業後にそのまま「もやいの会」に入会し、博物館ボランティアとして活動してもらいたいと考えている。
- (委員) 「もやいの会」の会員を増やすためにも、上手に繋げていってほしい。

報告事項②令和7年度 企画展「浦安の大衆芸能」開催案内

配付資料に基づき、事務局より説明した。
主な質疑・応答については、下記のとおり。

- (委員) 関連事業「しんうら寄席」に多くの申込があったようだが、要因はあるか。

(事務局) 共催するうらやす財団では、これまでも「しんうら寄席」を行っており、今回はその特別版として開催する。「しんうら寄席」はイベントとしての知名度が高く、また普段は落語の公演が主であるが、今回は初めて講談・浪曲を行うことも要因であると考えている。

報告事項③令和8年度 郷土博物館事業計画(案)

配付資料に基づき、事務局より説明した。
主な質疑・応答については、下記のとおり。

(委員) 博学連携事業について、今年度は海苔すき体験の欠席者対象のイベントがあり、子ども達も喜んでいました。

(事務局) 体験後、教員へのアンケートで欠席者のフォローについて意見があった。参加者も多く好評であり、8年度からも定番化していきたい。

(委員) 海苔すき体験で作られた海苔は、元漁師など舌の肥えた人にもおいしいと評判である。ぜひ子どもたちにフィードバックしてほしい。

(委員) 講演会「埋立地のまちづくり」について、今の中町地域は開発から50年が経過しており、一定の評価をして残すということを考えなくてはならない時期に来ていると思う。

(事務局) 浦安がいかに考えられて作られてきたまちであるかを伝えていくため、毎年テーマを変えて埋立地区に関する講演会を開催している。テーマ等についても、ご意見があればぜひいただきたい。

(委員) 中町・新町地域に最初期に入居した家庭の、団地や宅地分譲時の募集パンフレット等を寄贈していただけるよう働きかけるのも良いのではないかと。

(事務局) 現在、中町地域のパンフレット等や写真も収集している。今後、新町地域の「マリナイースト21」に関する資料等も集めていきたいと考えており、もし情報があればぜひ博物館に寄せてほしい。

その他

(委員) 市民の立場として、今後浦安が少子高齢化となる中で、行政が今の状況をきちんと認識し、若い職員が失敗を恐れず新しいことにチャレンジし、まちを変革できるようにしてほしい。

(事務局) 少子化にあっても、少人数を活かした活用の工夫によって、博物館での児童生徒の活動数は増えている。来館した子ども達が浦安への郷土愛を育み、大人になっても浦安に住み続けたいと思ってもらえるようにすることが博物館の仕事であると考えている。

(委員) 収蔵品データベースの写真について、市民が使用しやすくしてほしい。

(事務局) 「ふるさと浦安作品展」の作品に使用する際などは、申請なしでの使用も許可しているが、一般の方やマスコミ向けには、著作権の問題等もあるので使用申請をしていただいている。写真の拡大機能等もあるが、日々システムがアップデートもされているので、使いこなせていない機能もある。公開できていない資料も多々あるので、機能を活用して拡充していきたい。

以上をもって、令和7年度第2回浦安市郷土博物館協議会は閉会した。
閉会后、企画展「浦安の大衆芸能」の視察を行った。